

隣保館だより

4月号

No.393

つなごう手と手
築こう心の架け橋を



[発行・編集]

平成 26 年 4 月 1 日発行

三木市立総合隣保館 TEL 82-8388 FAX 82-8658

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館

検索

新年度のスタート 人間関係が広がります

あちこちで入学式や入園式、入社式などが華やかに行われ、新たなスタートの4月を迎えました。お隣の志染保育所からの元気な声もパワーアップしたように感じられます。新年度が動き出しました。

今年も桜の花が見事に咲きました。春といえば桜です。冬の間枯れたように眠っていた木の幹や枝からぐんぐん花芽が伸びてきて、一斉に薄ピンクの花を咲かせました。春風が散らせる花吹雪、芽吹いた新緑の心地よい木陰、次々と新しい姿を見せてくれる桜のように、私たちも新しいステージで一花咲かせるときです。

学校や職場では、新しい出会いで人間関係が広がります。人と人とのコミュニケーションは「あいさつ」からです。「あいさつ」は相手を理解する出発点。そこから会話のキャッチボールが始まります。そのコミュニケーションが、相手の気持ちを考えた温かいものでありたいですね。そして、そこに身を置くことで、安心して学べる、能力を発揮し自己実現をはかっていける、そんな場所をみんなで創っていきましょう。



平成26年度三木市立総合隣保館主な行事予定

月 日	行 事 名	場 所
5月17日(土)	三木市人権・同和教育協議会総会	三木市立市民活動センター
6月13日(金) 20日(金) 27日(金)	同和教育セミナー	三木市立教育センター □吉川町公民館(20日)
8月17日(日)	市民じんけんの集い	三木市文化会館
10月21日(火) 24日(金) 28日(火)	人権フォーラム	三木市立総合隣保館
11月15日(土)	三木市人権・同和教育研究大会	三木市文化会館他
12月6日(土) 7日(日)	三木市立総合隣保館文化祭	三木市立総合隣保館



内容は未定です。詳しくは別途案内にてご確認ください。

人権の小窓

平成 26 年 4 月

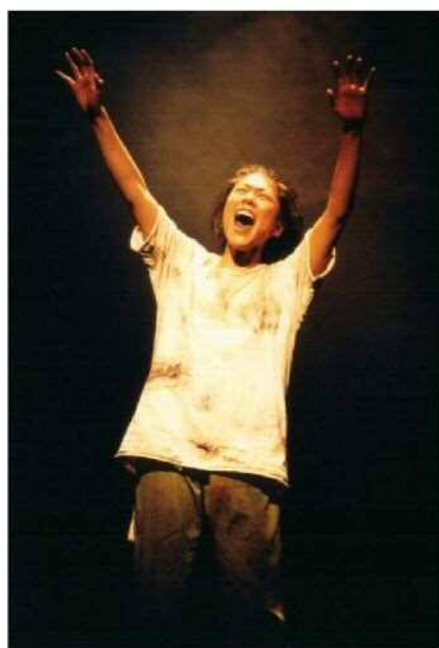
(143)

有馬理恵

地底からじわじわと湧き上がる「世界の原子力産業」と「権力」の恐ろしさをひしひしとを感じる今日この頃。憲法改定、国防軍、米軍基地、原発再稼働、原発輸出、原爆・原発による被曝、日本軍「慰安婦」問題、ヘイトスピーチなど、日本の権力は一体どこに向かおうとしているのでしょうか。

児童虐待、いじめ、体罰という名の暴行、DV、レイプ、ハラスメント、人権侵害、自殺がこれほどまでに多発している日本において、誰もひとりぼっちにさせないことが、今まず誰もがができる対応策のひとつだと思います。

しかし、未だひとりぼっちのまま日本社会から置いてきぼりにされ続けている「慰安婦」問題の女性たち、東京電力福島第一原発事故の被害者たち、沖縄の人々、在日コリアンたち、アイヌ民族たち、孤立死・餓死を余儀なくされた人々…。



私の人生の目的は、人間の自由と尊厳の解放です。そして、差別と戦争をなくすことに願いを込めて、俳優をしています。果たして、1本の芝居が人間を動かし世の中を動かす力になるのでしょうか。教科書的な教育芝居や正義だけを掲げる芝居やイデオロギーを声高に叫ぶ芝居はしたくありません。もっと人間のどうしようもない業を描き、人間の魂の奥底を揺さぶりたいのです。そのとき、人間は本来人間として持っている心を取り戻すことができるかもしれないと期待してしまうのです。芸術

の持っている力がどれほどのものか、わかりません。でも、信じてしまうのです、芸術の力を。

では、私は、どんな芝居をしたいのか？「世の中の一番底辺に追いやられた、もしくは置いてきぼりにされた人間たちの生き様をただただ描くことにより、とてつもない大きな社会的権力がおのずと浮き彫りになって見えてくる。」という構造の芝居がしたいのです。

私は、かつて同和地域と言われたところに生まれ育ちました。私の母方の祖父は戦争犯罪人B級戦犯として巣鴨プリズンに服役した人間です。私のアイデンティティは、私を育てた風土と私の中に流れる戦犯の血です。同和地域で生きていた父方の祖母は幼かった頃の私に、呪文のように教えました。「人を見たら泥棒と思え」「下向いて歩け、お金落ちてるかも知れんから」と。私は幼いながらにその教えに疑問を感じ反発しました。でも、祖母は、人を見たら泥棒と思わなければ、下を向いて歩かなければ、生きられない人生を歩まざるをえなかったのだと思います。

戦犯である母方の祖父は17歳の私に、「僕の頭の中には、天使と悪魔がいて、ずっと悪魔が勝ち続けてたんだ。」と、右手の人差し指で、頭のこめかみを叩きながら、大粒の涙を流し、無表情で言いました。軍人の狂気を見た瞬間でした。

もう二度と頭の中の悪魔を勝たせ続けなければ生きられない世の中にしたくない。万が一もしまた、そんな時代が来てしまったとしても、私は頭の中の天使を勝たせ続ける生き方を選びたい。そんな願いを込めて俳優をやっています。

権力に踏みにじられた声にならない声に耳を傾け、向き合うことがいま求められています。真の民主主義を取り戻すために、手に手を取り合い共に歩みましょう。



プロフィール

劇団俳優座所属。「肝っ玉おっ母とその子どもたち」「ステッピングアウト」「憲法ミュージカル」など、数多くの作品に出演しつつ、1999年より「釈迦内枢唄」（水上勉作、米倉斉加年演出）をライフワークとして各地で主演。昨年度、総合隣保館文化祭において、記念講演いただきました。

隣保館カレンダー 4月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	火	経営相談	16	水	
2	水		17	木	習字教室
3	木	習字教室	18	金	経営相談
4	金	経営相談	19	土	
5	土		20	日	
6	日		21	月	歌謡教室
7	月	歌謡教室	22	火	経営相談・着付教室
8	火	経営相談・着付教室	23	水	
9	水		24	木	手芸教室
10	木	手芸教室	25	金	経営相談
11	金	経営相談	26	土	茶道教室
12	土	茶道教室	27	日	
13	日		28	月	
14	月		29	火	昭和の日
15	火	経営相談	30	水	

★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：13時30分～

◎習字・着付教室：19時30分～

◎茶道教室：18時30分～

★経営相談 午前10時～

カレンダーを作りました

三同教で2014年度カレンダーを作りました。『まあいいココロあったかメッセージ'13』の作品のいくつかをイメージ豊かな書で表現しました。市内各学校・各公民館等で目に留まることでしょう。きっと手作りの温かさやさわやかな風を感じていただけるはずです。



平成26年度 隣保館教養・文化講座生募集

講座	講師	開講日時
習字教室	井上進さん	第1・3木曜日 午後7:30～
着付教室	小西修子さん	第1・3火曜日 午後7:30～
茶道教室	杉本さわゑさん	第1・3土曜日 午後6:30～
歌謡教室	黒田和彦さん	第2・4月曜日 午後1:30～
手芸教室	嶋田千津子さん	第2・4木曜日 午後1:30～

受講料は講座によって異なります(1,000円～)。材料を伴う講座は実費となります。都合により日時が変更される場合がありますので、お問い合わせは隣保館まで。

隣保館だより

5月号

No.394

つなごう手と手
築こう心の架け橋を



[発行・編集]

平成 26 年 5 月 1 日発行

三木市立総合隣保館 TEL 82-8388 FAX 82-8658

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館

検索



“子育て”をささえる“子育ち”



食卓にタケノコが顔を出す時期になりました。タケノコはその成長の速さに驚かされます。なんと1日で数十センチ伸びた例もあるそうです。固い皮に包まれているのは、柔らかいタケノコを保護するだけでなく、竹の節の成長を助ける働きがあります。やがて、成長を促しささえてきた皮は、若竹となった竹の節から剥がれ落ちます。役目を終えたのです。

子どもの成長はタケノコに似ています。特に、ぐんぐん体も心も成長する乳幼児期の子どもにとって、見聞きするもの触れるものすべてが成長のエネルギーです。乾いたスポンジが水を吸い込むように、全身で受け入れ、吸収していきます。親はさしずめ竹の皮でしょうか。やがて親の腕の中から飛び出し、自分で自分の幸せをつくっていくときまで、子どもを保護し、成長を助ける役割を担っているからです。

「18歳からは自分の人生。親の未熟と不徳をわびて、自分の人生を生きていくよう見送ってください」。これは「心のコーチング」の著書で知られる菅原裕子さんの言葉です。親の役割で大切なことは3つ。「愛すること」「責任」「人の役に立つ喜び」を教えること。そしてこの3つの力を世の中で使えるように教育を与えること。それが子どもの自立を促し、成長をサポートすることだと。さらに、その役割を果たすためには、親自身が自分を愛し、自分の人生は自分で幸せに導ける力があること、自分が人の役に立つ存在だということを知ることだと述べられています。

子どもは、本来、自ら育つ力をもっています。それを「子育ち」というなら、子どものあるがままを丸ごと受け入れ、ささえることが「子育て」であり、ひいては、親自身を育てる「自分育て」になるのではないのでしょうか。



差別をなくする輪をひろげよう市民運動

標語・作文の募集

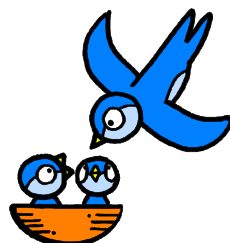
三木市及び三木市教育委員会では、人権課題の解決と共に生きる明るい地域づくりに向けて、今年度も「差別をなくする輪をひろげよう」をスローガンとする市民運動を展開します。

その一環として市内小中特別支援学校の児童生徒、PTA 会員、一般市民の方々から作文及び標語を募集します。

＊作文、標語ともに、応募は一人1点までとします。

＊提出期日は、平成26年5月16日（金）
総合隣保館まで。

応募内容及び様式等の詳細については、市HPもしくは総合隣保館までお問い合わせください。



人権の小窓

平成 26 年 5 月

(144)



豊かな出会い、そして確かなつながり

淡路市立多賀小学校 坂本 研二

「（同和教育にとりくもうとする）問題意識はあるものの…」「間違っただけを教えはしないか不安」「研修の機会が少ない」「適切な教材がない」
これらは兵庫県内の教職員から聞こえてきた声です。

＊（兵庫教育文化研究所がおこなった【同和・人権教育に関する教員の意識アンケート（09年度実施）】の設問「同和・人権教育を進める上で困っていることは？」に対する回答より抜粋。詳細は、同研究所発行『つながろうや』に記載。）

わたし自身もその一人でした。この間8年ほど、同じような声をもつ「問題意識はある！」仲間たちと「部落問題学習」の再構築をめざしてきました。そのとりくみは、隣保館主催の『同和教育セミナー（昨年6月）』に話をする機会をえました。上記『つながろうや』にも掲載されています。自ら試行錯誤のとりくみ過程で、「研修も教材も確かに大切だ」ということを実感しました。しかしそれだけではありません。あらためて気づいたこと、それは同和教育をとおしての『豊かな出会い、そして確かなつながり』です。
限られた紙面ですが、その一端を紹介して本稿とさせていただきます。

「ほんまに見学に来ますんか？」「見学してどないしますん？」
『いのちをいただいて』というテーマで「食肉」のとりくみを構想していたとき、不思議がられながらも親切に、食肉センターが建設された経緯や『畜魂祭』のことを教えていただいた所長さんの言葉です。

「“生命（いのち）”をいただくかあ…、きついなあ」「わしも昔やりよったなあ」

その後すぐ、「枝肉」が運ばれる「卸の肉屋さん」を訪ねたとき、語ってくれた社長さんの想いが、とりくみの原動力となりました。

「“生命（いのち）”を産ませる方も、大切に…な」「子牛農家や、それから地域の肉屋さんを大切にしたいよ」とも語ってくれました。

「仕事をしていて楽しいのは、お客さんが、“おいしかったよ”、“また来るよ”と言ってくれること。」と語ってくれたのは、「地域の肉屋」のおじさん。

「かわいがって大切に育ててきたからこそ、おいしい肉になってほしいし、ちょっとでも高い値で売れたらうれしい…」と語ってくれた、「子牛農家」のおばあちゃん。

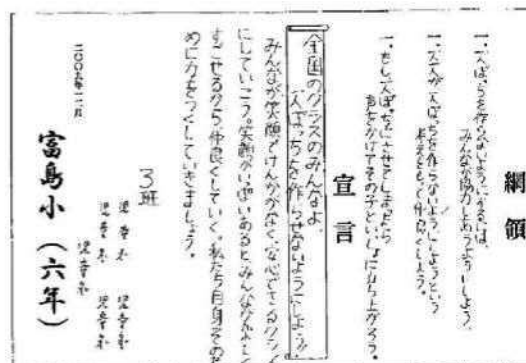


この人たちとの出会いに、子どもたちが育てられたことは言うまでもありません。

「みんながそろって、安心して授業ができるのは、とてもいい…」

『水平社宣言』のとりくみで、「人権が大切にされていると感じるのはどんなことで？」と尋ねたとき、ある子が語った想いです。どちらかというところ控えめで、友だちや家族のことで相談してきたことのある子だからこそ、この大切さがわかるのだと感じさせられました。

クラスの子たちから、教員が学ばされることもしばしばです。



部落の人たちとの出会いが、とりくみの、そしてわたし自身の支えになっていたことを紹介し、本稿を終わります。

「差別はまちがっている。だから差別をなくしていくことをしっかり教えてほしい。」

「わたしらにも機会があるんやったら、そのことをきちんと伝えたい。」

どのように部落問題学習をすすめようかと迷っていたとき、クラスの子のおじいさんと話し合う機会がありました。『教科書』のページ（身分と人々の暮らし）を見つめながら語られたこの想いに何度も背中を押されて、今があります。



「先生、（部落問題学習）そんなにがんばらんといてよ」と言いつつも、

「でもなあ…、もし差別にあったらなあ…」

わが子の将来を案じ、自問自答するお母ちゃんの姿は、今も鮮明です。

わが子へ「部落のこと」をいつかは話さなければ…と悩む若い親たちの顔がいくつも浮かびます。その悩み、いっしょに考えていきたいのです。

「海がきれい、夕日がきれい、おうちのベランダから見る景色は最高」

一方、子どもたちは「ムラに何かを感じとって」いきます。それを卑屈に思わせるのか、それを誇りに思わせるのか。この子たちに寄り添わずにはられません。

「ここに生まれたことを、決して卑屈には思っていない」

解放学級で学んできた若いお母さんの言葉に、十年後、二十年後に成長する教え子たちの姿を重ね合わせ、同和教育を信じてとりくむのみです。

「不安に思ったまま」何も教えなかったら、この人たちとの出会いはなかったでしょう。たとえ「間違ったこと」を教えても、この教育でつながった人たちが、寄り添ってくれると、これからも自信をもって同和教育をすすめていきます。

【プロフィール】

兵庫県尼崎市出身。小学校教員として淡路島に赴任。現在4校目、すべてが校区に部落を有する学校に勤務する機会を得、ライフワークとして同和教育にとりくむ。

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	木	習字教室	16	金	経営相談
2	金	経営相談	17	土	
3	土	憲法記念日	18	日	
4	日	みどりの日	19	月	
5	月	こどもの日	20	火	着付教室・経営相談
6	火	振替休日	21	水	
7	水		22	木	手芸教室
8	木	手芸教室	23	金	経営相談
9	金	経営相談	24	土	茶道教室
10	土	茶道教室	25	日	
11	日		26	月	歌謡教室
12	月	歌謡教室	27	火	着付教室・経営相談
13	火	経営相談	28	水	
14	水		29	木	
15	木	習字教室	30	金	経営相談
			31	土	

- ★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～
◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
★経営相談 午前 10 時～

「しあわせに生きる」 No.32

人権・同和問題啓発資料冊子「しあわせに生きる」No.32 を発行しました。昨年度の総合隣保館文化祭での記念講演や人権フォーラムにて発表していただいた実践内容の一部を掲載しています。自己啓発や学習会の教材等にご活用いただければ幸いです。ご希望の方は、総合隣保館までお問い合わせください。

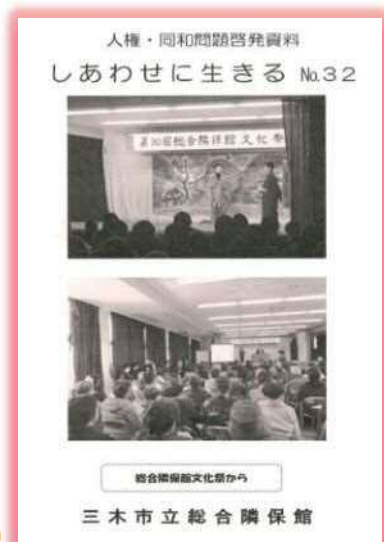
（数に限りあり）



図書を入れ替えました



総合隣保館の図書（子ども用）を新しく入れ替えました。放課後や土曜日になると、小中学生の子どもたちが集まってきます。気に入った本を手にとって読みふけている姿はいいものです。隣保館では人権に関する図書や資料を多数取り揃えています。貸出も行っていますので、みなさんぜひお立ち寄りください。



隣保館だより

6月号

No.395

つなごう手と手
築こう心の架け橋を



[発行・編集]

平成 26 年 6 月 2 日発行

三木市立総合隣保館 TEL 82-8388 FAX 82-8658

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館

検索

曇天の梅雨空にひとときわ鮮やかにたたずむアジサイ。そのアジサイの雨に濡れた葉っぱの上を歩くカタツムリ。6月に思い浮かべる風景です。カタツムリにはオスメスの区別がないことをご存知でしたか？1匹でオスとメスのどちらのはたらきもするそうです。不思議ですね。さらに『カタツムリは、カミソリの刃の上を歩くことができる』。こんな話も聞きました。その様子を想像するだけでゾクッとします。カタツムリは、自身が出す粘液で肌が傷つかないようにでき、傷がついても自分で修復する高い能力をもっているのです。すごいですね。

セクハラ、パワハラ、マタハラ…、世の中ハラスメントがあふれています。何げない言動で人を傷つけることの多いこと。「そんなこともできないの」と、鋭利な刃物で切りつけられたようなときも、「だいじょうぶ」「気にしないで」と、肩をぽんとたたかれると元気が出てきます。嫌がらせやいじめに負けない、ハラスメントを許さない環境をみんなで創っていくことが大切です。それは、見て見ぬふりをしないこと、傍観者にならないこと。きっと、カタツムリの不思議な力に勝るとも劣らないものになるはずですから。



隣保館 視察研修会

■行き先／ホロコースト記念館

広島県福山市御幸町中津原 815

■日 時／平成 26 年 7 月 5 日（土）

出発 8:00⇒帰着 17:00（予定）

■その他／参加費 1,500 円、定員 40 名

※ お申込み、お問合せは総合隣保館まで。定員になり次第締め切ります。



同和教育セミナーのご案内



今年度も下記の日程で隣保館同和教育セミナーを開催します。人権・同和教育問題をいっしょに学習しませんか。多数のご参加をお待ちしています。

回	日 時	内 容（テーマ）	講 師	会 場
1	6 月 13 日（金） 午後 7 時 30 分～9 時 30 分	湊川高校での人権教育の取組	元湊川高等学校教諭 登尾 明彦 さん	教育センター
2	6 月 20 日（金） 午後 7 時 30 分～9 時 30 分	差別を支えるもの 迷信や無知 そして…	篠山市宗玄寺住職 酒井 勝彦 さん	□吉川町 公民館
3	6 月 27 日（金） 午後 7 時 30 分～9 時 30 分	和を奏でる ～和太鼓を通して人権・同 和教育を考える～	兵庫県職員 和太鼓・篠笛演奏・和奏風草 山中 節 さん	教育センター

◆手話通訳要約筆記があります。参加は無料です。



「子どもの自己有用感を高める」

阿部 知

三木市では、三木市人権尊重のまちづくり条例の理念を踏まえ、平成25年4月に「三木市子どものいじめ防止に関する条例」が施行され、子どものいじめを許さない社会づくりを進めています。



昨今、いじめの深刻化が社会問題として大きく取り上げられていますが、いじめをなくすためには、私たちはどうすればよいのでしょうか。

国立教育政策研究所の^{たきみつる}滝充さんは、学校、家庭、市民が連携して、いじめの予防が必要であり、他人の役に立つ体験を通して、子どもたちに「自己有用感」を獲得させることが重要であると指摘しています。

自己有用感とは、「集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということを自分自身で認識すること」です。子どもたちは、頼りにされている、誰かの役に立っている、認められていると感じると、他人に対して思いやりの心やいたわりの気持ちが育ち、暴力やいじめを引き起こしにくく感じます。

兄弟姉妹や近隣の子どもが多かった時代は、家庭や地域でのお手伝いや遊びの中で、年齢に応じた役割を果たすことを通して、子どもたちは、家庭や地域の一員であることを自覚できました。しかし、最近では、家庭

や地域での子どもたちの役割が減ってきていることもあり、子どもたち自身が自己有用感を獲得しにくくなっています。

そのような中、学校では、異学年での活動や地域での学習を取り入れ、友だちや他者への思いやりやいたわりの心を体感できる機会を増やしています。それらの学習を通して、「誰かのために役に立った。」「相手に喜んでもらえてうれしかった。」と感じ、自分の存在が大切だと感じることが出来ます。

また、家庭や地域で自己有用感を育むために有効なこともあります。子どもと一緒に遊んだり、おしゃべりをしたり、作業をしたりして過ごすことによって、人の心が通い合う温かさを伝えます。心が通い合うことの心地よさを子どもたちに体感させるのです。乳幼児期から小学校低学年時には、スキンシップを通して温かさを伝えることもできますし、高学年や中学生になれば、感謝の気持ちを言葉で伝えることもできます。

また、手伝いや仕事を任せるということも効果的です。任せた後、子どもたちに「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることで、やり遂げた達成感や喜び、感謝する気持ち、物事を最後までやり通す責任感などが育まれ、自分が家族や地域の一員であるという自覚につながってきます。子どもをほめる、励ます、認める等の言葉かけや温かいまなざしを積み重ね、子どもがかけがえのない大切な存在であることを伝えていくことで、子どもの自己有用感が高まっていきます。子どもをはじめすべての人の人権が尊重され明るく住みよいまちにしていくために、私たちができることをしていきたいですね。

【プロフィール】 三木市子どもいじめ防止センター勤務



隣保館カレンダー 6月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	日		16	月	
2	月		17	火	経営相談・着付教室
3	火	経営相談	18	水	
4	水		19	木	習字教室・手芸教室
5	木	習字教室	20	金	経営相談、同和教育セミナー
6	金	経営相談	21	土	茶道教室
7	土	茶道教室	22	日	
8	日		23	月	歌謡教室
9	月	歌謡教室	24	火	経営相談、着付教室
10	火	経営相談	25	水	
11	水		26	木	手芸教室
12	木		27	金	経営相談、同和教育セミナー
13	金	経営相談、同和教育セミナー	28	土	
14	土		29	日	
15	日		30	月	

★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～
 ◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
 ★経営相談 午前 10 時～

でこぼこ石みつけ！

この題名からどんな内容なのか想像できますね。
 一人一人考え方や感じ方が違うのは当たり前。なのに、みんなと同じでないと、不安になったり仲間に入れてもらえなかったりして安心できない。主人公の洋子は、クラスメイトのミチが、みんなにはっきりと意見を主張したことで仲間はずれにされたのを見てイヤな気分になる。そんなある夜、流れ星を見た陽子は、あわてて願い事を唱えようとしてますが…。



この物語は、当時（平成 12 年）伊丹市の小学校 6 年生だった山内玲乃さんによる創作童話『デコボコ石』の原作をもとに、イラストレーターの永田萌さんが編集・挿画して完成しました。一人一人の個性を尊重することの大切さを伝えています。隣保館の図書コーナーにあります。ぜひご覧ください。

新しい本が入りました

書 名	著 者 等	出 版
思春期の子どもの心のコーチング	菅原 裕子	二見書房 他
誕生日を知らない女の子	黒川 祥子	集英社
かぜのでんわ	いもとようこ	金の星社

隣保館だより

7月号 No.396

つなごう手と手
築こう心の架け橋を



[発行・編集]

平成 26 年 7 月 1 日発行

三木市立総合隣保館 TEL 82-8388 FAX 82-8658

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館

検索

原因不明の頭痛やめまい、不眠や倦怠感、呼吸困難にみまわれることも…。さて、こんな症状に心当たりがあるでしょうか。最近、『夫源病』または『婦源病』という言葉が注目されています。名前のとおり、「夫」が原因で妻の身体に、あるいは「妻」が原因で夫の身体にこのような症状が現れるそうです。いずれにしろ、自分勝手に傲慢で、要求ばかりしては、相手を精神的に追い詰めることなど分かり切ったことです。たとえ夫婦や家族であっても、人権を無視した言動は、ますます症状を悪化させ、結果的に自分自身が大変な状況になってしまうのですから。



ところで、その治療法として効果的なのが『会話』です。「ただいま」「おかえり」。仕事の疲れもふっとぶあったかいひとこと。「ごめんね」。傷つけ、傷つけられても、相手を許し、自分の心も許す渾身のひとこと。「ありがとう」。空っぽだった心もこのひとことでエネルギーが満たされます。こんな当たり前のひとことが、お互いの心も身体も潤し、不快な症状を改善してくれるはずです。最近気分が冴えない方、もしかしたら身近な人との関係に原因があるのかもしれない。



平成 26 年度「市民じんけんの集い」



日時 8月17日(日) 午後1時30分～ (受付: 午後1時～)
場所 三木市文化会館大ホール



〔第1部〕「差別をなくする輪をひろげよう」市民運動作品

優秀賞受賞者表彰

人権作文優秀賞受賞者朗読

〔第2部〕市民によるじんけんメッセージ朗読

ムジカドルチェさんによる演奏(BGM)

講演 「ふたたび、人権から 2014」

「わたし」は「わたし」になっていく

講師 作家 落合恵子さん

文化会館コミュニティホールにおいて、市民運動作品の展示、人権関係体験コーナー、福祉バザー等を実施します。みなさんおそろいでお出かけください。

作文・標語・ポスターの応募ありがとうございました

「差別をなくする輪をひろげよう市民運動」で作品を募集しましたところ、多数応募いただきました。一つひとつの作品からみなさまの思いや願いが伝わってきました。8月に入賞作品を発表します。ご協力ありがとうございました。



人権の小窓

平成 26 年 7 月

(146)



出会い ～ムジカドルチェ～

藤田 紀子

活動を始めて、この4月で7年目を迎えました。恩返しがしたい、自分も誰かの役に立ちたい、でも、何が出来ようだろう・・・そんなとき、一人の少女と出会いました。脳性マヒで生まれたSちゃんは自分の足で歩くことができません。「自分の足で歩けるように」、お母さんがそう願って、毎日リハビリのトレーニングを続けていらっしゃいます。私はそのリハビリのお手伝いに参加させていただくことにしました。

私の息子は自閉症です。赤ちゃんの時はとてもおとなしくやりやすい子でした。歩けるようになった頃から、全く目が離せなくなり、いつも手を握っていないと迷子になってしまう、夜はなかなか泣き止まない、枕もとをいったりきたりして寝つきが悪い、そして、いつになったらしゃべるのだろうか、と、不安な毎日を過ごすようになっていました。

そして予感的中、自閉症の診断が下されたのです。たくさんの本を読み知識が増えていく中で、子育てが原因でないこともわかり、頭では理解できても身体全体で受け入れるには相当時間がかかりました。こんなはずではなかったと自分の運命を呪ったこともありましたが、それでも、同じような子どもをもつお母さん方と知り合いになり、話をし、聞くうちに少しずつ元気を取り戻し、以前のように楽しく生活ができるようになりました。



保育園、幼稚園や学校の先生方、病院、相談機関、保健師さんに言語訓練、そして先輩のお母さん方、周りの方々に助けられ感謝の気持ちでいっぱいです。今の私があるのはこれらの方々のおかげに他なりません。私もいつか役に立ってこの恩返しがしたいと思うようになりました。

リハビリのボランティアで、あるとき、Sちゃんのお母さんに幼稚園でのミニコンサートを依頼されました。その時出会ったのが、今のムジカドルチェのパー

トナーです。彼女もまたリハビリのボランティアに参加していたのです。ですから、Sちゃんはまさしくムジカドルチェのキューピットです。Sちゃんがいなければムジカドルチェは誕生しませんでした。もっと言えば、私は息子がこの出会いをプレゼントしてくれたと思っています。

かけがえのないパートナーは私の財産です。そして、コンサートをする度に出会いが広がっていきます。息子がいなければ一生なかったかもしれない出会いです。

2007年にムジカドルチェを結成して以来、本当にありがたいことにいつもどこかで誰かが応援してくださり、盛り上げていただけてきました。年間約40回ほどのミニコンサートをさせていただいています。なんらかの事情でコンサート会場にお越しになれない方のそばで好きな音楽を奏でたい・・・その機会が増えていくことを願って日々、地道に活動を続けています。

息子はヘルパーさんに付き添っていただけてよくコンサートを聴きに来てくれます。15歳になった今も言葉で伝えることはありませんが、音楽に言葉は要りません。音楽に合わせて身体を揺らし、微笑んでいる彼を見ていると、とっても元気づけられます。最近、息子と過ごす時間がとても楽しいです。素直な彼は誰からも愛されています。

「ムジカドルチェはどんな意味ですか？」とよく聞かれますが、イタリア語で「優しい音楽」という意味です。私はこれからもひとときの癒しの時間を届けられるよう、音楽活動を続けていきたいと思っています。いつも感謝の気持ちを忘れずに・・・。



【プロフィール】

2007年4月ムジカドルチェを結成。

メンバーはチェロ：小賀野祐子、ピアノ：藤田紀子

三木市内を活動の拠点とし、年間約40公演を開催。病院やデイサービス、幼稚園や小学校、地域のイベントやふれあいサロンなどに出演。レパートリーはクラシックから昭和歌謡までジャンルにとらわれず、耳なじみのある曲を演奏。

2013年「みきボランティア活動賞」受賞

隣保館カレンダー 7月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	火	経営相談	16	水	
2	水		17	木	習字教室
3	木	習字教室	18	金	経営相談
4	金	経営相談	19	土	茶道教室 (9:00~)
5	土	茶道教室 (13:00~)、館外研修	20	日	
6	日		21	月	海の日
7	月		22	火	経営相談・着付教室
8	火	経営相談・着付教室	23	水	
9	水		24	木	手芸教室
10	木	手芸教室	25	金	経営相談
11	金	経営相談	26	土	
12	土		27	日	
13	日		28	月	歌謡教室
14	月	歌謡教室	29	火	経営相談・着付教室
15	火	経営相談	30	水	
			31	木	

★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～
 ◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
 ★経営相談 午前 10 時～



2014 課題図書がそろいました

今年度の青少年読書感想文コンクールの課題図書が、隣保館にそろっています。窓口に並べてありますので、ぜひ手に取ってご覧ください。貸出期間は 1 週間です。



(小学校)	まよなかのたんじょうかい どこかいきのバス ミルクこぼしちゃだめよ！ ひまわり
(中学校)	ともだちは、サティール！ ただいま！マラング村 ちきゅうがウンチだらけにならないわけ よかたい先生
(高等学校)	ふたり マッチ箱日記 時をつなぐおもちゃの犬 カブトムシ山に帰る
中学校	星空ロック 語りつぐ者 ホタルの光は、なぜだらけ
高等学校	アヴェ・マリアのヴァイオリン 路上のストライカー 生命とは何だろう？

隣保館だより

8月号 No.397

つなごう手と手
築こう心の架け橋を



[発行・編集]

平成 26 年 8 月 1 日発行

三木市立総合隣保館 TEL 82-8388 FAX 82-8658

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館

検索

子どもたちにホロコーストを伝える



◆隣保館の視察研修で、広島県福山市にある「ホロコースト記念館」を訪ねました。この記念館は、「ホロコースト」を知るために、日本で最初につくられた施設です。ホロコーストから思い浮かべるイメージは、あまりにも暗く怖いものです。アメリカやヨーロッパにあるホロコースト記念館では、幼い子どもたちの入場を制限しているところもあるくらいです。◆1971年、記念館の館長である大塚信さんが、イスラエルでアンネ・フランクの父親オットー・フランクさんに偶然出会ったことがきっかけで、このホロコースト記念館建設が動き出しました。根底にあるのは、犠牲になった150万人ものユダヤ人の子どもの姿を通してホロコーストを伝えること、平和を問いかけることです。◆“見ないふり聞こえないふりそれが罪”これは昨年度募集した人権標語の入選作品です。ユダヤ人に対する差別は、ナチス・ドイツだけでなく、一般市民や、事実を知っていて無関心を装った諸外国の態度で広がったといわれています。これこそ大きな罪と言えるのではないのでしょうか。◆一方、命の危機に直面していた多くのユダヤ人を救うために行動した“正義の人”もたくさんいました。当時リトアニアに赴任していた日本人外交官 杉原千畝氏もその一人です。彼が発給した『命のビザ』は、およそ6000人のユダヤ人の命を救ったことで知られています。◆記念館の説明で、ここが、子どもたちにとって、かつての悲劇的な出来事から平和や人権を学ぶ場となり、平和への明るい希望を持つことができるようにと強く訴えておられました。「同情するだけでなく、平和をつくり出すために何かをする人になってください」オットー・フランクさんの言葉が強く心に残った研修でした。

差別をなくする輪をひろげよう



右のポスターは、今年度「差別をなくする輪をひろげよう市民運動」募集したポスターの部で、優秀賞に選ばれた上吉川小学校 1年 今井慎之介さんの作品です。手足の動きや見つめ合う笑顔から友だちとの楽しい会話が聞こえてきそうです。

8月は人権尊重のまちづくり推進強調月間です。市と市民のみなさんが力を合わせて、一人一人の人権が尊重される明るいまちをめざし、人権文化あふれる地域づくりに取り組んでいきましょう。



人権の小窓

(147)

平成 26 年 8 月

第 33 回（平成 25 年度）全国中学生人権作文コンテスト
全国人権擁護委員連合会長賞 受賞



平和のバトン

岡山県岡山市立石井中学校 2 年
平井万裕（ひらいまゆ）

初めて訪れた広島平和記念資料館で、私はこれまで感じたことがないほどの激しい恐怖と深い悲しみに包まれていた。写真や遺品の一つ一つが、六十八年という時を超えて原子爆弾の恐ろしさと、傷つき、命や家族を失った人々の悲しみを訴えてくるようだった。学徒動員の遺品は、同世代の人の最後を物語っているようで、自分もその場にいるような息苦しさを覚えた。女学生が身につけていた制服は、原爆の熱線によって焼け焦げていた。全身に大やけどを負った少女は、どんなに苦しんだことだろう。「水、水。」と必死に水を求めながら亡くなったのだろうか。

中でも、未だに私の頭から離れないのは、中身が真っ黒に焦げた一つの弁当箱だ。弁当箱の持ち主の滋くんは、出征中の父と兄に代わって山や竹やぶを開墾し、一家を支えて畑を作っていたそうだ。その日の弁当は、自分が初めて収穫したものを使って、母親が作ってくれたものだったそうだ。心のこもった弁当を持ち、喜んで出かけた滋くんは、その弁当を食べることなく、たった十三歳で原爆の犠牲となった。母親のシゲコさんは、破壊された街を必死で搜索し、ようやく滋くんの遺体と、遺体に抱き抱えられた弁当箱と水筒を発見したそうだ。私には、黒焦げの弁当箱と、それを抱いて倒れている滋くんの姿が重なって見え、戦争が身近な恐怖として迫ってきた。

家に帰ってからも、滋くんの弁当箱は私の心から離れなかった。そんな私に祖母は、

「これを見てごらん。」

と、一枚の写真を見せてくれた。七十六歳になる祖母は、折に触れて私に戦争の話をしてくれるのだ。色あせた写真には、セーラー服姿で気をつけてしている小柄な少年が写っていた。祖母から、

「ばあちゃんが一番上の兄ちゃんが、中学三年で海軍に志願した時の写真なんよ。」

と聞いて驚いた。祖母の兄は、自ら志願して海軍に入隊したそうだ。兄の決意を聞いた時、父親はだまって何も言わなくなってしまう、母親は「畳の

上で死なせてやりたい。」と言って兄にたくさんのびわを食べさせたそう。びわを食べて腹をこわせば、入隊できなくなると考えたらしい。当時六歳だった祖母には、兄の姿がただ立派に見えたそうだが、出征前の記念写真には、家族全員の泣きはらした顔が映っているそう。最後の写真かもしれないと考えながら家族写真を撮ることは、親としてどんなにつらいことだっただろう。自分が思いだす家族写真といえば、七五三の着物姿や、ディズニールンドやハワイでの楽しい思い出写真ばかりだというのに。

その後、祖母の兄は、自分の小指を切って血判状^{けっばんじょう}を書き、自らが爆弾となる人間魚雷^{ぎょらい}に志願したそう。祖母は、

「兄ちゃんが、呉^{くれ}から横須賀^{よこすか}に向かうという連絡を受けた時、母ちゃんは、一郎の姿を一目見ようと、岡山駅に行ったんじゃって。でも近づけずに踏み切りで待ったたら、シャッターが下りた列車の窓から、兄ちゃんの手だけが見えたんじゃって。」

と教えてくれた。たった一つ見えた手が、息子^この手に見えたという曾祖母の言葉は、「弁当^{べんとう}を食べることなく死んだ息子が不憫でならなかった。」という滋^しくんの母の言葉と重なって、戦争中の母の悲しみを教えてくれた。幸いにも出撃前^{しゅつげき}に終戦を迎えたそうだが、自分と同じ中学生で原爆の犠牲となった滋^しくんと、国のために自分の命を捧げようとした祖母の兄の生き方があまりにも悲しかった。そして、平和な時代に生まれた自分は、何をすればいいのかと考えるようになった。

原爆投下から六十八年目の今年、広島^{ひろしま}の平和記念式典を伝えるテレビには、私が訪れた平和記念公園が映っていた。こども代表は、「平和の誓い^{ちかひのちかひ}」の中で、『あの日から目をそむけません。もっと知りたいのです。被爆^{ひばく}の事実を。被爆者の思いを。もっと伝えたいのです。世界の人々に、未来に。』と訴えていた。思えば祖母も七十六歳。私はおそらく、祖母から直接戦争の話を聞くことのできる最後の世代になるだろう。祖母の戦争の話はいつも決まってこう締めくくられる。

「戦争で幸せになった人は誰もおらん。」
この言葉に込められた意味を真剣に考え、二度と戦争を繰り返さないのだという強い意志を受け継ぐことが、今の私にできることなのかもしれない。「いってきます」と言って母さんが作ってくれた弁当を持ち、大好きなバスケットボールをし、からっぽの弁当箱を持って「ただいま」と帰宅する、このあたりまえのことができる幸せに心から感謝したい。

私はこれからも、戦争のことをもっと知りたい。もっと伝えたい。滋^しくんや、祖母達の世代が命をかけて手渡してくれた「平和のバトン」を、必ず次の世代に引き継ぐために。

この作品は、「第33回全国中学生人権作文コンテスト」（平成25年度）において、全国人権擁護委員連合会長賞を受賞された作品です。



★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～（8 月の手芸教室はありません）
◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
★経営相談 午前 10 時～

想いのこもった曲を力強く演奏される姿をみせていただき、共助の心と日本文化の負の部分との矛盾について考えさせられました。貴重なお話と見事な演奏をありがとうございました。



[発行・編集]

平成 26 年 9 月 1 日発行

三木市立総合隣保館 TEL 82-8388 FAX 82-8658

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館

検索

★高齢者が社会を支える★

シルバーという言葉から何を連想しますか？英語でシルバーは「銀」や「銀色」という意味です。しかし日本語では「高年齢の一」という意味でも使われています。年齢とともに髪の色が銀色になることに関係があるのでしょうか。また、結婚 25 周年を銀婚式というように銀には「25」を表す意味もあるようです。あるいは「高齢者優先席」を連想する人も多いでしょう。いわゆるシルバーシートです。これは初めて「高齢者優先席」を導入した昔の国鉄が、一般座席と区別するために銀灰色の布地を使って座席を作ったことが始まりです。そこから「シルバーライフ」、「シルバー人材」など、どんどん和製英語のシルバーワードが作られていきました。

今年は 15 日が敬老の日です。敬老の日の始まりは、1947 年（昭和 22 年）、当時の兵庫県多可郡野間谷村（現

在の多可町八千代区）の村長と助役が提唱した「としよりの日」です。当時は長寿を祝うというよりは、よりよい村づくりのために、年長者の貴重な知恵を拝借しようという趣旨だったようです。そして、農作業の落ち着いた気候のよい 9 月中旬の 15 日に敬老会を開催していました。それが後に「老人の日」と名前が変わり、さらに現在の祝日「敬老の日」になったそうです。

日本の高齢化は 2050 年にピークを迎え、10 人に 4 人が 65 歳以上の社会になる見込みだと言われています。まさに、シルバー世代が輝く長寿社会のすばらしさを世界に発信するチャンスでもあります。人は生きている限り誰もが高齢者になります。いくつになっても、人としての尊厳を保ちつつ、生きがいを持って、安心して暮らせる社会でありたいものです。

差別をなくする輪をひろげよう 市民じんけんの集い 2014・8・17



人権作文の優秀賞受賞者による朗読。人権に対する作者の思いが声に乗って聴く人に伝わりました。

人権とは、だれの足も踏まないこと、だれにも自分の足を踏ませないこと。その約束と実行です。



♪ 加トルEさんの BGM で始まった「まあいいココロ あったかメッセージ」の朗読。会場全体がしっとりと温かい雰囲気になりました。

暑い中、多数のご参加ありがとうございました。



人権の小窓

平成 26 年 9 月



(148)

企業と人権



イオン三木店 店長 山中和美

昨年の兵庫県人権教育研究大会東播磨大会（高砂会場）にて、三木市人権・同和教育協議会 企業部会の代表として、弊社の人権に関する取組について発表させていただく機会をいただいたことは、あらためて人権について考えを深め広げる機会となりました。

イオンは従業員数 9 万人、グループ各社を合わせるとさらに多くの仲間が働いています。また、日々多くのお客様にご来店いただき、また様々なお取引先様との関係があります。

イオンの基本理念である『お客様第一』は『相手の立場で考え自分と等しく尊重しよう』という考えです。自分も相手も大切にする適切なコミュニケーションは明るく働きやすい職場環境の基本となります。従業員一人一人が、自他を尊重し、誰もが気持ちよく働きやすい職場環境をつくること、お客様やお取引先様への対応や配慮に繋がります。人権・行動規範研修で学習を深め知識を得ることは非常に重要なことと考えております。

イオンの人権基本方針は、

- イオンは、人権を尊重し、国籍・人種・性別・学歴・宗教・心身の障がいなどを理由とした差別を一切行いません。
- イオンピープル一人一人が、ともに働く仲間の声に耳を傾け、お互いを自分と等しく尊重します。
- イオンは人間に最もやさしい企業をめざします。

としています。

人権教育は、新入社員・一般社員教育で基本的な考え方と行動を身につけ、イオンの基本理念と行動規範、人権基本方針やさまざまな人権問題についての理解を深める機会としています。そして接客などの職務実践に活かすと同時に、職場の良好な人間関係づくりにも役立っています。また、幹部研修では、管理者として人権問題を正しく理解し、人権に配慮したマネジメント業務に努め、人権問題

と企業活動との関わりについて学習しています。

店内では、高齢のお客様や車椅子をご利用のお客様も多くなっており、段差や通路幅など目線を低くして見直しを行っています。以前受講した介助士アドバイザー研修で、『高齢者の疑似体験』として両肘・両膝・両手・両足の動きを制限するサポーターやおもりをつけ、色彩が判りにくいカラーつきのメガネをかけて、実際に外へ出て一般の店舗でお弁当を購入するという実習を通じ、驚きと動きにくいもどかしさを体験したことは貴重な経験でした。

また、近年の課題として、パワーハラスメントの防止と相談対応やメンタルヘルスの重要性が急激に増えています。障がい者雇用についても、各店舗間で雇用率のバラつきがあるのが現状です。雇用促進の為に、設備面の改善とダイバーシティーの考え方を深め、共有し、受け入れる環境を整えることが必要だと考えています。

さらに、『企業の社会的責任（CSR）』について取り上げられる機会も非常に多くなりましたが、イオンでも企業と人権についての取組を進めています。企業に関わるステークホルダーは、地域社会・お客様・取引先・行政・従業員など様々であり、そのいずれとも「人権尊重は企業の社会的責任」の考え方が基本となっています。現在、海外でも多くの製造委託先があり「イオンはお客様に提供する商品の製造段階にも責任を持つ」との目的で、『イオンサプライヤーCoC（取引行動規範）』で労働環境や環境汚染防止など企業倫理及び法令遵守と継続的改善に取り組むことを制定しています。

『すべてはお客様のために』これからも私たちを取り巻くさまざまな人権課題に真摯に取り組み、地域のお客様とともにさらに前進してまいりたいと思います。

ダイバーシティー：企業で、人種・国籍・性・年齢を問わずに人材を活用すること。

ステークホルダー：企業に関わる様々な利害関係を担う相手のこと。

イオンサプライヤーCoC：世界各地の製造委託先（生産者・生産地）を対象とした取引行動規範。内容は、児童労働の禁止や強制労働の禁止等。



<プロフィール>

イオンリテール株式会社（旧ジャスコ）入社

大阪、滋賀、京都 各店で勤務

2012年9月から現職

隣保館だより

10月号 No.399

つなごう手と手
築こう心の架け橋を



[発行・編集]

平成 26 年 10 月 1 日発行

三木市立総合隣保館

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

お問い合わせ

TEL

82-8388

FAX

82-8658

E-mail

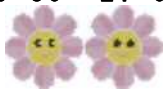
jinken@city.miki.lg.jp

人権フォーラム

わたしの

ひとこと

場所：三木市立総合隣保館

日 時	発表者（敬称略）	テーマ
10月21日(火) 19:30～21:00 	豊地小学校 6年 道先 碧	「なかよし学級の大切さ」
	志染小学校 PTA 坂本 規	「咲かせよう人権文化の花」
	みにょんち代表	「心の病と生きる」
	平田小学校教諭 梶 孝夫	「出会いの中からの一考察」
10月24日(金) 19:30～21:00 	三木東中学校 1年 武市 琉希	「障害のある人の人権」
	手話通訳者 箕田 尚	「おかげさま」
	細川デイサービスセンター 堀 雅博	「高齢者の方がひとりにならないために」
	星陽中学校 PTA 長谷田 克彦	「さまざまな見方見え方」
10月28日(火) 19:30～21:00 	中吉川小学校 4年 藤田 真一	「ぼくにできること」
	人権教育指導員 寒者 恵	「私のいきがいになったこと」
	ムジカドルチェ 藤田 紀子	「心に残っている言葉」
	元人権擁護委員 井本 隆一	「幸せに生きること」

都合により発表者の日時や順番が変更されることがあります。

秋の夜長、虫の音が心地よい季節になりました。今年度も隣保館主催、恒例の人権フォーラムを開催します。同和問題をはじめとする様々な人権問題について、発表者の方々にそれぞれの経験や思いを発表していただくことになっています。そして、参加していただいたみなさんと、ふれあいを図りながら感動を共有するとともに、認識を深め合いたいと思います。どうぞお誘い合わせの上、多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

子どもたちの明るい未来のために私たちが知っておきたいこと

講演会

～私たちの子どもの健康と安全対策～

安全な食べ物の選び方、放射能からの身の守り方～

- 講師／フリーライター 守田敏也さん
- と き／11月8日(土) 13:30～16:00
- ところ／三木市立教育センター4階 大研修室
- 参加費／500円(当日集金)
- 備考／一時保育あり(要申込 1歳～。先着5名。締切 10/23)
- 主催／三木市人権教育団体 ELLみき
- お問い合わせ／総合隣保館 ☎82-8388



人権の小窓

平成 26 年 10 月



(149)

女性への暴力と貧困



正井禮子

阪神淡路大震災発生直後に女性支援ネットワークをたちあげ、女性のための電話相談を開設した。相談の約 6 割が夫や恋人からの暴力（今でいう DV）であり、その後は DV 被害者支援が団体のメインの活動になっていった。「たった一人でもいいから自分の味方が欲しかった」という当事者の声から同行支援活動（警察や行政の窓口、弁護士事務所などと一緒に行く）も始めた。やっと離婚が成立しても手放しでは喜べない。その後の生活の困難、一人で子育てをする不安が彼女たちを苦しめる。DV 法は保護と防止の法律と言われ、当事者の生活再建への支援は乏しく、新たな地域で非常に孤立して暮らしている場合も少なくない。そんな状況を知り神戸でシングルマザーの会をつくった。毎月 1 回、シングルマザーが各地から集まるが、参加を重ねることで徐々に元気になっていける。自分一人じゃないという思いや、怒りや悲しみを共有することで、少しずつ本来の自分らしさを取り戻していける。母親が元気になることで、子どもも元気になっていくことが嬉しい。

身体的暴力だけが DV ではない。精神的暴力（怒鳴る、束縛する）や性的暴力（性行為の強要、避妊しない）、経済的暴力（生活費を渡さない、借金をする）も DV である。しかし、多くの女性はそれを暴力とは思わず、「あなたさえ我慢すれば子どもから父親を奪わないですむ」「どんなひどい父親でもいるほうがまし」といった周囲の偏見や自身の思いこみに縛られてなかなか離婚できないでいる。当事者に「DV 家庭で育つことは子どもにとって心理的虐待である」と児童虐待防止法にも明記されており、その影響は深刻であることを伝え、「目からうろこだ」と言われて、やっと家を出る決心のついた女性もいる。

ところで、世界男女格差ランキングをご存じだろうか？ これは男女の格差が小さい国ほど上位となり、北欧諸国（4 位はフィリピン）が並

んでいる。日本は 135 か国中なんと 105 位、先進国としては最低である。理由は、女性の経済力が低いこと、政治参画^{せいしさんかく}が進んでいないことが大きい。日本では第一子を産むと6割の女性が仕事をやめている。最近の女子学生の調査でも、子どもができたら仕事をやめて子育ての後、再就職すると回答した学生が多い。しかし再就職は条件が悪く、多くが非正規雇用^{ひせいきこよう}になりキャリア形成ができず管理職の女性比率も低い。女子学生には、「4組に1組が離婚しており、DV や、夫の会社の倒産やリストラもある。だが再就職は厳しい」というリスク教育が必要かも知れない。

特に、シングルマザーの収入は低く、200 万以下が4割。300 万以下が7割で、約半分は貧困^{ひんこん}家庭（全国平均収入の半分以下）である。シングルマザーの貧困は、即子どもの貧困、教育格差^{かくさ}につながる。貧困そのものが子どもへの虐待であるとも言われている。

数年前にデンマークに行ったときに、「子どもは社会の宝である。だから国の予算の多くを子どものために使う」と聞いた。例えば小中学校は一貫教育^{いっかん}で生徒数は 18 人以下で、学校の設備が美しく、アフタースクールが夜の8時頃まであり、プログラムも非常に充実していた。日本でも子どもは社会の宝と言われている。しかし、国の予算が子どもたちに充分に使われているだろうか。国の仕組みや予算を決める国会における女性国会議員比率は、2014 年、世界平均が 22%、北欧諸国が 40%、日本は 8%で世界 189 か国中 127 位、これまた先進国で最低である。男女平等社会の実現には意識^{いしき}変革^{へんかく}だけでは無理で、法律や制度が必要であるが、その決定の場にあまりに女性が少なすぎるのが問題である。

男女が平等でお互いを尊重する関係に暴力は起きない。三木市内でも、中・高生を対象にデート DV 防止教育を行っている。「交際する前に学べてよかった」「男女平等をつくるのは僕たちの仕事だ」との、中学3年生徒の感想に励まされて日々活動している。

<プロフィール>

NPO 法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ代表理事



★各教室の開始時間	◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～ ◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～	◎茶道教室：午前 9 時～
★子育てキャラバン	午前 10 時～	
★経営相談	午前 10 時～	





[発行・編集]

平成 26 年 11 月 4 日発行

三木市立総合隣保館

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

お問い合わせ

TEL

82-8388

FAX

82-8658

E-mail

jinken@city.miki.lg.jp

第31回 総合隣保館文化祭

12月6日(土)・7日(日)は第31回総合隣保館文化祭です。隣保館各講座生による作品展示や発表、子どもたちによるダンスや劇など、さまざまな催しがいっぱいです。日頃隣保館事業にご支援いただいている皆様に感謝を含めて開催します。ぜひおそろいでお出かけください。

12月6日(土) 午後7時～ 前夜祭 ミニコンサート♪
演奏 ムジカドルチェさん

12月7日(日) 午前9時30分～
開会行事・記念講演
テーマ:「人権尊重のまちづくり」
— 隣保館を拠点として —
講師 奈良教育大学名誉教授
中川喜代子さん



第30回総合隣保館文化祭



昨年度の様子

ご案内

人権・同和教育研究大会

フィールドワーク

三同教(三木市人権・同和教育協議会)研究大会

■日時/11月15日(土)13:30～17:00

(記念講演は14:50まで)

■場所/三木市文化会館 他

■記念講演/「三同教46年のあゆみと今後
に期待するもの」

講師/部落解放同盟三木市支部連絡協議会
議長 橘田好正さん

※開会行事や記念講演はどなたでも参加できます。

全人教(全国人権教育研究協議会)研究大会

■日時/12月6日(土)9:00～16:00

12月7日(日)9:00～15:30

■場所/香川県高松市・高松市総合体育館

※詳しくは総合隣保館へお問い合わせください。

現地を歩いて人権の取組に触れる

■日時/11月30日(日)9:00～16:00

■場所/加古川市別府地区

■参加費/無料(昼食代は参加者負担)

■定員/40名(申込多数の場合抽選)

■申込/総合隣保館(82-8388)

締切 11月20日(木)

※氷丘中学校国際交流部のチャングロ演奏と卒業生
の話があります。



人権の小窓

平成 26 年 1 1 月

(150)

「友達の気持ちに寄り添える学校文化」を

赤松 篤



学校教育の中では、人権意識の高揚とか人権文化の構築こうちくが求められてきました。人権文化構築の第一歩は、学校生活の中で「あれっ？それって人権を踏みふにじる言動じゃないの？」と、教師が気づくことです。そして、あたりまえの事として人を大切に^{いちいん}する教育を常に意識して進めることです。

皆様の周りに「からかい」の文化はありませんか。私は、人を「からかう」ことが人権を踏みふにじり差別しやちようを助長する一因いちいんだと思っています。

3年前、啓発冊子「きずな」の中で人権教育啓発推進センター理事の田中正人さんが「路地裏ろじうらの人権」と題して次のような事を述べておられました。

…「そんなに怒るなよ、差別するつもりなんかなかったんだから。」これではいつまでも、差別が起きてからの人権じゃないか！！と怒りを感じていた。ならば、「差別しないつもり」はあったのか？と問いたい。人権は、常に空気のように人と共にある。他の人の『存在と意思』に思いを馳はせることで、人権が活きる。

「そんなに怒るなよ。冗談だよ。泣かすつもりはなかったんだよ。」じゃあ「泣かさない気持ちはあったのか？…。」

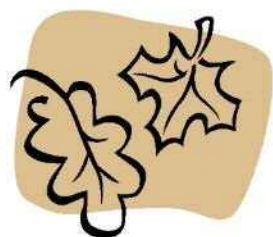
「差別しないつもり」「いじめないつもり」で、私の存在と私の気持ちを大切に思ってくれていたのですか？…。いじめられた経験のある人は、こう叫びたいのです。

学校で学ぶ時の根幹は、児童が安心して通え、保護者の方も安心して子どもを通わせることができる環境だと、私は考えてきました。それは「からかいのない学校文化」、言い換えれば「友達の気もちに寄り添える学校文化」を築くことです。「からかう」ことで人とのつながりを持つとするのは間違いだと気づかせるとともに、「友達の気もちに寄り添える学校文化」を築くことができるように、児童には「3つの約束、一つの決まり」を示し、事あるごとに話してきました。

その約束は、「挨拶をしよう。だいじょうぶ？って言える人になろう。自分の気持ちをお話しよう。」です。何より大事にしたい決まりが「名前や身体のことだからかうことは許さない」です。名前や身体はその人そのものの、その人の人格です。身近な人権とは、人格を傷つけず大切にすることです。



自分との関係で、隣^{となり}の人の人格や気持ちに思いを馳せ、寄り添うことができれば、学校文化だけでなく家庭でも職場でも地域でも人権文化が花開き、幸せな人間関係が構築できると、私は思っています。



《プロフィール》

前三木市立自由が丘東小学校長

地域教材「^{しょうとくひ}頌徳碑」のシナリオを書く。

副読本や紙芝居にも採用された。

隣保館カレンダー 11月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	土		16	日	
2	日		17	月	
3	月	文化の日	18	火	経営相談
4	火	着付教室・経営相談	19	水	歌謡教室・子育てキャラバン「3・4歳あつまれ」
5	水	子育てキャラバン「2歳あつまれ」	20	木	習字教室
6	木	習字教室	21	金	経営相談
7	金	経営相談	22	土	
8	土	茶道教室	23	日	勤労感謝の日
9	日		24	月	振替休日
10	月	歌謡教室	25	火	経営相談
11	火	着付教室・経営相談	26	水	
12	水		27	木	手芸教室
13	木	手芸教室	28	金	経営相談
14	金	経営相談	29	土	茶道教室
15	土	三同教研究大会	30	日	フィールドワーク

★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～
 ◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
 ★子育てキャラバン 午前 10 時～ ★経営相談 午前 10 時～



「私のひとこと」に聞き入りました



10月21日・24日・28日の人権フォーラムでは、夜の出にくい時間帯にもかかわらず多数ご参加いただきました。発表者の方々の「ひとこと」を聴きながら、あらためて人権意識を見つめなおす貴重な機会となりました。お忙しい中参加していただいたすべての方々、本当にありがとうございました。

感想

- ◇ このような講演会があることであらためて人権問題を考えるきっかけができました。子どもたちにも伝えていきたいと思いました。
- ◇ たくさんの人との素敵な出会いが人を強くするのですね。“みにょんち”を初めて知り、貴重なお話を聞かせていただきました。一度訪ねてみたいと思いました。
- ◇ 見えにくくなってきている部落差別について、しっかり考えなくてはいけないと思った。人権文化の花をいっぱい咲かせたいですね。

★★★先月号でお知らせしました発表者の表記に誤りがありました。お詫びして訂正します。(正)星陽中学校 PTA 長谷田克彦様 (誤)豊地小学校 PTA 長谷田克彦様 ★★★

市民が創る

まあるいココロ

あったかメッセージ '14

「あったかメッセージ」に多数ご応募いただきありがとうございました。今年のテーマは「私がメダルをあげたい人」かわいいうリーフレットにしてお届けします。お楽しみに。

体育の時間、緊張している時「がんばれ!」「○○ならできる」と言ってくれたみんな

レジでおつりをもらう時、笑顔で「ありがとうございます」と言ってくれるお客さん

雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も、関係なく学校まで一緒に歩いてくれる見守り隊の人

いつも降るときに「いってらっしゃい」と言ってくれるバスの運転手さん



[発行・編集]

平成 26 年 12 月 1 日発行

三木市立総合隣保館

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

お問い合わせ

TEL

82-8388

FAX

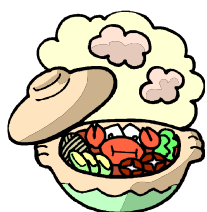
82-8658

E-mail

jinken@city.miki.lg.jp

12/4(火)~10(月) 人権週間 じんけんの はたけを たがやす

…人権意識の芽は、地域や学校、職場において、あるいは同僚や仲間、友人同士の間で、さらに家族や親戚との付き合いの中で、私たちがそれぞれかけがえない存在として相互にかかわっていけるような、そうした土壌の中で育まれていくものです。したがって、それが豊かな土壌であるか、やせた土壌であるかによって、その畑にどれだけ人権意識が芽生え、育っていくかが決まってきます。…
『三木市人権尊重のまちづくり基本計画』より



12月を迎えいよいよ冬本番。あったかい鍋料理がおいしい季節です。白菜にネギ、大根…、畑では鍋料理に欠かせない野菜が立派に育って食卓デビューを待っています。野菜や米作りのスタートは土づくり。植物は土に種をまいただけでは発芽しません。発芽には、適度な水分と温度と空気が必要です。そして発芽後は日光と肥料を加えることでぐんぐん育っていきます。

『平成 25 年度兵庫県人権に関する県民意識調査』によると、人権尊重の考え方に強い影響を与えたものとして「家族でのふれあいの中から」が最も多くなっています。次いで「学校での人権教育」や「地域、職場でのふれあいの中から」…、と続きます。人権意識を芽生えさせるそれらの土壌に必要なものは、適度な潤いと温かさが保たれた人間関係でしょう。人と人とお互いに幸せを感じることができる環境に人権意識が育まれていくのです。

12月4日(木)~10日(水)は人権週間です。『みんなで築こう人権の世紀、考えよう相手の気持ち、育てよう思いやりの心』のテーマ(法務省)のもと、人権文化の花を咲かせる畑を耕し、日常のさまざまな出来事を「人権の視点」から見つめなおしてみましょう。



総合隣保館 文化祭

昨年度の文化祭の様子です。

12月6日(土) 9:00~21:00



交流餅つき大会、子どもたち全員集合など
ムジカドルチェ コンサート(19:00~20:15)

12月7日(日) 9:00~16:00



記念講演会(9:30~11:30)

テーマ『人権尊重のまちづくり』~隣保館を拠点として~
講師 奈良教育大学名誉教授 中川喜代子さん

第30回総合隣保館文化祭



隣保館各講座生による作品展示や発表、子どもたちによるダンスや劇など、さまざまな催しがいっぱいです。日頃隣保館事業にご支援いただいているみなさんに感謝を込めて開催します。ぜひおそろいでお越しください。

人権の小窓

平成26年12月



(151)

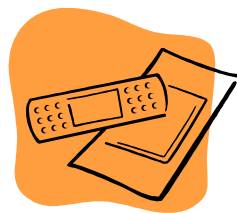
痛い！・・・？



三木市立三木特別支援学校 校長

今枝弘子

「痛い」。ある日のことです。いつものように子どもたちの様子を見に、ぶらりと廊下を歩いていた時のことです。小学部の一人が真剣な眼差しで私を見つめています。私は「痛い！」と訴えられたのだと思い、「どこが痛いの。」とその子の腕や足を見ました。すると、少しの間私の様子を見ていた先生が、にっこり微笑みながら、「痛い！じゃなくて、痛い？ですよ。先生の指のことですよ。」と教えてくれました。あっ、思わず左の人差し指を見ました。昨日、不覚にもきゅうりと一緒に切ってしまった人差し指。傷テープがしっかり巻かれています。「そうか、ありがとう。昨日は痛かったけど、もう大丈夫。」すると、大きな瞳をより一層大きくさせながら、喜びの表情で私を見つめました。不随意運動があり、自分の思いとは違う動きで自分の指を噛んでしまったり、というこの子にとって、傷テープひとつでも痛みが分り、人を思いやることが自然とできるのだなと思いました。



また、ある時。「先生！」と廊下で授業参観にいられていたお母さんに呼び止められました。「昨日うちの子誕生日だったんです。私、初めて子どもにお誕生日おめでとう！って言ってあげられたんです。」と嬉しそうにお話してくださいました。私も思わず「そう。お母さん、それは何にも代え難い一番の誕生日プレゼントだったね。」

と笑顔を返しました。私の心は、お母さんが子どもの誕生をしっかり受け止めてくださった、そして、他人である私に、そのことを話してくださった、という2つの嬉しさでいっぱいでした。

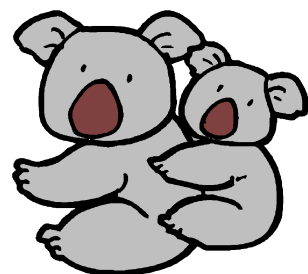


この時、ふと思い出したのが、^{きんきとくべつしえん}近畿特別支援学校知的^{ちてき}障害^{しょうがい}教育校PTA^{しゅうがう}連合協議会の講演会で栗木剛（くりき つよし）先生がお話されていたことです。先生が、新任で小学部1年生を受け持たれた時、入学式前日、一生懸命黒板に書いた「ご入学おめでとうございます。」

の文字を見た新入生の保護者の方が、「なにが入学おめでとうや」と小声ではあるがはっきり言われたという^{けいけん}経験談です。

子どもの成長を願わない、喜ばない親はいませんが、障がいのある子どもの親にとって、特に母親にとっては、自分の子どもに障がいがあるということを受容^{じゅよう}するまでには様々な思いや不安、そして^{まわ}周りの障がいに対する無理解へのショック等々、計り知れないものがあります。その一つひとつを乗り越えてやっと、「お誕生日おめでとう。」とわが子に言えたお母さん。それは、とても大きな一歩であり、記念すべき日となったわけですが、お話しただかないと分らないことです。

人権を考える時、しばしばその人の立場になって考えることが大切だといいますが、知識だけでは考えることはできません。様々な経験をする中で、様々な立場の方と出会い、話をする中で、一つひとつ積み上げられていくことです。私の指をいたわってくれた子どもの^{しんけん}真剣な^{まなざ}眼差しを、私に話をしてくださったお母さんの嬉しそうな姿を、大切にしていきたいと思いました。



日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	月		16	火	経営相談・着付教室
2	火	経営相談	17	水	子育てキャラバン3・4歳あつまれ
3	水		18	木	習字教室
4	木	習字教室・手芸教室	19	金	経営相談
5	金	経営相談	20	土	茶道教室
6	土	総合隣保館文化祭	21	日	
7	日	総合隣保館文化祭	22	月	歌謡教室
8	月	歌謡教室	23	火	天皇誕生日
9	火	経営相談・着付教室	24	水	
10	水		25	木	
11	木	手芸教室	26	金	
12	金	経営相談	27	土	フラワーアレンジメント教室
13	土		28	日	
14	日		29	月	隣保館年末休館
15	月		30	火	隣保館年末休館
			31	水	隣保館年末休館

★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～
◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
★子育てキャラバン 午前 10 時～ ★経営相談 午前 10 時～

わが子をネットトラブルから守るために



日時	平成 26 年 12 月 20 日（土）10:30～11:30
場所	三木市立教育センター 4 階大研修室
参加者	小学生から大人まで どなたでも。（小学生は保護者同伴）
定員	100 人（参加料無料 事前申込み不要）
講師	『ネットいじめやトラブルから子どもを守るために』 NTTドコモ スマホ・ケータイ安全教室事務局

【お問合せ先】 三木市子どもいじめ防止センター（月～土曜 9時～17時）

Tel 82-8110 Fax 82-8900 E-mail ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp

日 時 平成 26 年 12 月 27 日(土)
午前 9 時～午前 12 時

場 所 総合隣保館 1 階大会議室

[12月24日(水)まで]
TEL 82-8388 担当: 橘田

隣保館だより

1月号

No.402

つなごう手と手
築こう心の架け橋を



[発行・編集]

平成 27 年 1 月 5 日発行

三木市立総合隣保館

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

お問い合わせ

TEL

82-8388

FAX

82-8658

E-mail

jinken@city.miki.lg.jp

新年 明けましておめでとうございます

総合隣保館は、今年も同和問題をはじめとするあらゆる人権問題解決のための様々な学習の機会を企画いたします。一人ひとりがお互いの人権を尊重し、共に楽しく生活できる社会の実現のため、活動していきたいと考えております。皆様の御意見や御指導をいただきますようお願い申し上げます。

また、12月6日7日の文化祭には、大勢のみなさんにお越しいただき、多彩な催しで大いに賑わいました。参加してくださったすべての方々にあらためてお礼申し上げます。

第31回

文化祭

三木市立総合隣保館



三木市から『隣人祭り』を発信しよう

ご近所さんが集まってお茶やお食事をする事。

「準備が大変」「大勢集めないで…」

そんな心配などしないで、もっと気軽に集ってみましょう。

「桜が咲いたから集まろうか」

「久しぶりだからちょっと話そうか」

日本には「お花見」や「井戸端会議」など、昔からの隣人文化があります。

そこにお隣さんと程よい距離で、長くおつきあいする知恵がありました。

そんな昔ながらの知恵を、今の暮らしに合ったスタイルで見直しましょう。

例えば マンションの中庭や近所の公園で、お寺の境内で…。

人数が少なくても、途中から参加する人や帰る人がいてもいいんです。

明日から「おはよう」とあいさつできる人が、

ご近所にひとりでも増えたら素敵なことだと思いませんか？



『人権尊重のまちづくり—隣保館を拠点として—』
奈良教育大学名誉教授 中川喜代子さんによる記念講演より

♪『しあわせ運べるように』
地震にも負けない 強い心をもって
亡くなった方々のぶんも 毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
支え合う心と明日への 希望を胸に
響きわたれば私たちの歌 生まれ変わる神戸のまちに
届けたいわたしたちの歌 しあわせ運べるように

あの日から20年、人々の様々な思いを込めて街に再びこの歌が響きます。震災から学んだ教訓を次の世代に語り継いでいくためにも、1.17が、一人ひとりが互いに支え合う絆の日となりますように。

人権の小窓

平成 27 年 1 月

(152)



共生社会を現実のものとするために！

仲田 昭

私は、今、知的障がいのある方々が共同生活をしているグループホームに勤めています。

そのグループホームの基本理念の一つは、「全ての人々が、地域の中でその人らしい自立した生活を送り、幸せな人生を全うできる社会」を目指すことであり、ここで共同生活をしている方々の中に、彼が小学生の頃、担任として共に過ごした方がいます。

彼と出会った昭和五十年代半ばは、養護学校義務化がようやく始まった頃であり、障がいのある方々に対する人々の視線や態度は、対等というには少し遠いように感じられました。

彼をはじめ障がいのある子どもたちと共に過ごす中で、人間にとって何が大切であり、何が重要であるかなど多くのことを学ばせていただき、彼らが生きる上で障壁となっている事柄を少しでも取り除き、彼らが今以上に生きやすい社会を目指したいと強く思いました。



そのような日々から三十年余りが経過しましたが、その間には、特殊教育が特別支援教育に移行し、障がいの種類や程度に応じて教育の場を整備する教育から、一人一人の教育的ニーズに応じた教育に転換され、LDやADHDなどの発達障がいも特別支援の対象となりました。

また、「障害者基本法」(注 1) が一部改正され、「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律(障害者虐待防止法)」や「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」など様々な法律が整備されました。



これは、多くの人々が、同和問題をはじめ様々な人権課題の解消にねばり強く取り組んできた成果であり、またそれと同時に、広く人権意識の高揚を図る中で、ノーマライゼーション(注 2) の理念が、社会全体に浸透してきた結果であると思います。

その一方、社会には今なお理不尽な差別が存在し、全ての人々が個人として尊重される社会とは言い切れない現状があります。

人権感覚は、気を許すとすぐに錆びてしまい、人権感覚が錆びてくると、様々な人権課題に対して間違った考えを持ってしまうおそれがあります。また、障がい者に対する課題は理解していても、他の人権課題を理解しているとは限りません。それ故に、私たちが、偏見を持たない、差別をしない、許さない生き方をするためには、体験や学習を通して自尊感情を高め、人権感覚を日常的に磨き続けていくことや、様々な人権課題について一つ一つ真摯^{しんし}に学び、十分理解を深めていくことが、何よりも重要であると考えています。



(注 1) 目的は、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現。

(注 2) 障がいの有無等にかかわらず、全ての人々が地域で安心して普通の生活ができることを当然とする福祉の基本的考え。

【プロフィール】

元三木市立三樹小学校長。

三木市内小・中・養護学校(現特別支援学校)、兵庫県教育委員会、三木市教育委員会等に勤務。

隣保館カレンダー 7月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	木	元日 隣保館年始休館	16	金	経営相談
2	金	隣保館年始休館	17	土	
3	土	隣保館年始休館	18	日	
4	日		19	月	歌謡教室
5	月		20	火	経営相談
6	火	経営相談	21	水	子育てキャラバン「3・4歳あつまれ」
7	水	子育てキャラバン「2歳あつまれ」	22	木	手芸教室・習字教室
8	木	習字教室	23	金	経営相談
9	金	経営相談	24	土	茶道教室
10	土	茶道教室	25	日	
11	日		26	月	歌謡教室
12	月	成人の日	27	火	経営相談
13	火	経営相談	28	水	
14	水		29	木	
15	木	手芸教室	30	金	経営相談
			31	土	

★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
 ◎習字教室：午後 7 時 30 分～ (着付け教室 休み)
 ★子育てキャラバン 午前 10 時～ ★経営相談 午前 10 時～

ある精肉店 のはなし



いのちを食べて いのちは生きる

大阪貝塚市での屠畜見学会。牛のいのちと全身全霊で向き合う、ある精肉店との出会いから、この映画は始まった。
 家族 4 人の息の合った手わざで牛が捌（さば）かれていく。牛と人の体温が混ざり合う屠場は、熱気に満ちていた。
 店に持ち帰られた枝肉は、丁寧に切り分けられ、店頭には並び、皮は丹念になめされ、立派なだんじり太鼓へと姿を変えていく。
 家では、家族 4 世代が食卓に集い、いつもにぎやかだ。家業を継ぎ 7 代目となる兄弟の心にあるのは、被差別部落ゆえのいわれなき差別を受けてきた父の姿。差別のない社会にしたいと、地域の仲間とともに部落解放運動に参加するなかでいつしか自分たちの意識も変化し、地域や家族も変わっていった。
 2013 年 3 月。
 代々使用してきた屠畜場が、102 年の歴史に幕を下ろした。最後の屠畜を終え、北出精肉店も新たな日々を重ねていく。
 いのちを食べて人は生きる。
 「生」の本質を見続けてきた家族の記録。

(映画紹介パンフレットより)

2/11(水・祝) 映画上映・講演・交流会 三木山森林公園音楽ホール

第一部上映 10:00～
 第二部上映 14:15～
 前売り 500 円 (当日 800 円)
 (小・中・高校生無料 要申込)

講演
 12:00～13:00
 瀬瀬 (はなせ) あや監督
 北出新司さん

監督・出演者との交流会
 13:00～14:00
 参加料 500 円 (小学生 300 円)
 軽食付き (限定 60 名・要予約)

申込は
 総合隣保館
 まで



[発行・編集]

平成 27 年 2 月 2 日発行

三木市立総合隣保館

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

お問い合わせ

TEL

82-8388

FAX

82-8658

E-mail

jinken@city.miki.lg.jp

アザーボイスズ



性をとわれ
歳をとわれ
生まれの地を
国をとわれる
あげくのはてには
カネや病のあるなしまで

いなみ しんじ



近ごろは
地震があった地に
住んでいただけで…

どうにもならないことを
どうにかせよと 迫りくる
自己責任という 御旗をかざしながら

このがけっぴちを あまたの人が
日々往来しても すべては路傍の人
このがけっぴちから
助けてとあげる声は
風に吹かれ かき消され 届かない

この国では だれもががけっぴち
子どものこと 老親のこと 仕事のこと
日々のくらしのこと
身体や結婚や名前のこと
などなど
細いいのちづなを懸命ににぎりしめ
毎日を必死で生きている

こんながけっぴちで みつける
一株のすみれ草
風に吹かれても なお けなげに
だれかれのわけへだてなく
辺りになごみをかもしだす

しゃがみこみ 愛でながら
小さな声に ゆっくりと耳をかたむけ
心を添わしたい

アザーボイスズ

このがけっぴちで



※「アザーボイスズ」とは、別の声、別の価値観という意味。または、周辺の声、主流でない声。

(「平成 26 年度
人権問題文芸作品『のじぎく文芸賞』詩部門佳作) より

アザーボイスズ（別の声）とはどのような人々の声なのでしょう。障がいがある人たち、ひとり暮らしの高齢者の方々、いじめや虐待を受けている子どもたち…。社会の主流ではない人たちの小さな声が聞こえていますか？このような声が、アザーのままいつまでも続く社会は健全とは言えません。ひとりの声は小さく弱いけれど、たくさん集まれば、レオ・レオ二作『スイミー』のお話のように、自分たちを飲み込もうとする巨大な力に対抗することができるはずです。小さな声に耳をかたむけ、寄り添い、心を合わせることが、今までとは違う価値観を築くための確実な一歩になるのではないのでしょうか。

隣保館研修会 フィールドワーク



日 時▶2月21日(土) 9:00~12:00 雨天決行

場 所▶志染町 (隧道→頌徳碑→墓(寺)など、徒歩で移動します。)

その他▶参加費 100 円(当日徴収) 申込・お問い合わせは総合隣保館(Tel82-8388)へ。
申込締切 2月13日(金)

日 時▶2月21日(土) 12:00~14:30

場 所▶総合隣保館

その他▶参加費 400 円(小中学生 200 円) 食事付
申込・お問い合わせは総合隣保館へ



国際交流

ワークショップ

人権の小窓

平成 27 年 2 月

(153)

「春待ち子育て」

吉井満寿美

お正月があっという間に過ぎていきました。まだまだ寒い日がやってくるでしょうが、春は少しずつ近づいてきます。児童センターの園庭には、もうタンポポの葉っぱがしっかりと地面にはりついて、やわらかな日差しを浴びています。

子育て支援という仕事を通じて、たくさんのお父さんやお母さんにお出会いすることができました。それぞれに、子どもにかかわるスタイルは違っていても、子どもを思う親心を誰もが必ず持っておられます。子育てを一生懸命されているのです。

こんな方がおられました。「子どもは言って聞かせてもわからないんです。だから、叩いてしつけます。人の痛みがわかるように。私も、叩かれて育ちました。今、それなりにやっ
ていけているんです。何事にも負けない根性も育ったんだと思っています」と…。

人は、幼くして親に叩かれて、本当に頑張れるものでしょうか。子どもにとって、親は強者です。弱者の子どもが親に叩かれれば、怖くて怖くてたまらないのではないのでしょうか。体の痛みも然ることながら、心の痛みは強烈です。

先ほど、話してくれた方が「叩くことを、親からのしつけだから」と捉えることができたのは、その時の親が自分に真剣に向き合ってくれたから、自分を大切に思ってくれているという実感があったからではないのでしょうか。



それが何事にも負けない心を育て、“自分は愛される価値のある人間だ”と思える心を育てたのではないのでしょうか。

体や心に強烈な痛みを与えなくても、私たちは子どもを「しつけ」ていくことができるのです。「こうするといいよ」「こうしたら、気持ちがいいね」と、言葉を使って折に触れて繰り返し伝えるのです。蒔いた種の芽が出るのを楽しみに待って水をあげるように。叱ったり、ほめたり、いっしょに笑ったり、泣いたり怒ったりしながら…。

「真似る」ことも、子どもは得意です。自然に親の態度やしぐさを真似ています。親が社会のルールを守っていれば、自然と子どもにそれが身についていきます。



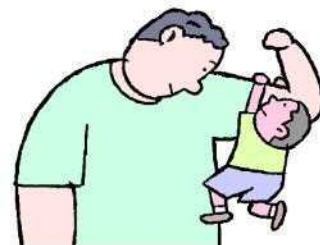
冷たい風の吹く日には、お父さんやお母さんのあったかい手が小さな子どもの手を握ってやるだけでいいのです。

可憐なタンポポの花を差し出されたら

「ありがとう、かわいいね」と言って、受け取ってあげたらいいのです。もしも、手を繋ぐことを拒否されたり、花を振り払われてしまったりすることが続いたら、子どもは生きていく元気も勇気も持てません。

こんなときは、親が子どもに「ごめんね」と謝りましょう。澄んだ子どもの目を見てあげてください。どの子もみんな、世界中のどこの誰よりもあなた（お父さん、お母さん）を愛してくれています。

幼い心に芽生えた「人として大切にされたい。尊重してもらいたい」という小さな種を、みんなで一緒に育てていきましょう。春を待つように、ゆっくりと、じっくりと。



【プロフィール】

平成8年から中学校のいじめ不登校対策相談員、平成10年から両親教育インストラクターとして勤務。

隣保館カレンダー 2月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	日		16	月	歌謡教室
2	月		17	火	着付教室・経営相談
3	火	着付教室・経営相談	18	水	子育てキャラバン「3・4歳あつまれ」
4	水	子育てキャラバン「2歳あつまれ」	19	木	習字教室
5	木	習字教室	20	金	経営相談
6	金	経営相談	21	土	フィールドワーク・国際交流・茶道教室
7	土	茶道教室	22	日	
8	日		23	月	
9	月	歌謡教室	24	火	経営相談
10	火	経営相談	25	水	
11	水	建国記念の日	26	木	手芸教室
12	木	手芸教室	27	金	経営相談・フラワーアレンジメント
13	金	経営相談	28	土	
14	土				
15	日				

★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～
 ◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
 ★子育てキャラバン 午前 10 時～ ★経営相談 午前 10 時～

新着図書を紹介

書 名	著・編 者	出 版 社
誕生日を知らない女の子	黒川祥子	集英社
自分を抱きしめてあげたい日に	落合恵子	〃
「わたし」は「わたし」になっていく	〃	東京新聞
いのちの食べかた	森 達也	角川文庫
跳びはねる思考	東田直樹	イースト・プレス
自閉症の僕が跳びはねる理由	〃	エスコアール
ゆめいらんかね やしきたかじん伝	角岡伸彦	小学館
ルポ京都朝鮮学校襲撃事件	中村一成	岩波書店
仕事休んでうつ地獄に行ってきた	丸岡いずみ	主婦と生活社

フラワーアレンジメント

日時▶ 2月27日(金)
19:30～

場所▶ 総合隣保館

会費▶ 3,000 円

25～30 cm の正方形、または長方形の箱に活けます。

持ち物▶ はさみ、箱

講師▶ 田中真紀さん

♥ お問い合わせ、申込は隣保館まで



おいしいものを食べられるのは、数え切れない「誰か」がいるから。その「誰か」の支えで、ぼくらの暮らしは続いている。“知って自ら考える”ことの大切さを伝えるベスト＆ロングセラーの名作。
(本書 紹介文より)

僕は 22 歳の自閉症者です。人と会話することができません。僕の口から出る言葉は、奇声や雄叫び、意味のないひとりごとです。普段している「こだわり行動」や跳びはねる姿からは、僕がこんな文章を書くとは、誰にも想像できないでしょう。——本文より——





[発行・編集]

平成 27 年 3 月 2 日 発行

三木市立総合隣保館

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

お問い合わせ

TEL

82-8388

FAX

82-8658

E-mail

jinken@city.miki.lg.jp

花は咲く あなたに咲く...

東日本大震災の復興支援イメージソングとして歌い継がれている『花は咲く』。一輪の花を胸に歌う姿が印象的です。この歌は、震災で亡くなられた方々の目線で作られたのだそうです。作詞者の岩井俊二さんは、「無念のうちに亡くなられた人たちの想いは聴くことができない。想像するしかない。」という被災者の言葉に背中を押され、「数行では到底描き切れない想いの僅かな片鱗でも…」との思いで書き綴ったと語っておられます。

あれから4年が経とうとしています。被災地では少しずつ日常が戻ってきつつありますが、今なお多くの被災者の方々が、経済的にも精神的にも過酷な状況に置かれています。中でも福島第一原子力発電所事故の影響は深刻です。放射能の除染作業によって集められた膨大な放射性廃棄物の処分問題はなかなか進んでいません。戻れない我が家のこと、失った仕事のこと、健康不安…、これらは生活を減茶苦茶にされた人権侵害にほかなりません。復興はまだまだこれからです。

歌詞の中で繰り返される“花は 花は 花は咲く”。深い悲しみと絶望の淵にあっても再び命はめぐり、花は咲く。亡くなった方々の想いを届けるこの歌を歌い継ぐことが、“忘れないで…”という永遠のメッセージなのでしょう。

ある精肉店のはなし

2月11日（水）に三木山森林公園音楽ホールで『ある精肉店のはなし』の映画上映がありました。監督の 瀬瀬あやさんと、出演者の 北出新司さんを講師に迎えての講演会や交流会にも多数ご参加いただきました。映像が強く訴えかける『命と食』、『家族』、『部落差別』…。それらを受けとめた方々の思いが会場全体に漂っていました。

《感想の一部を紹介します。》

- ◆ 主人公の生業は現実には非常に厳しいものですが、見る者にはごく自然にあるがままの姿が伝わってきた。こうした感想を持てたこと自体よい勉強の機会となりました。
- ◆ 見えないものをきちんと見つめていくことが、差別をなくすのだということを感じました。新しい人権教育、人権運動の方向性が自分の中で見えてきたような気がしています。
- ◆ この仕事が特別な仕事とっていないとおっしゃっていたことがとても印象に残りました。
- ◆ 映画全体に流れている“重さ”は生命の重さであり、同和問題の重さであると感じた。
- ◆ 屠畜はあまり目に触れる職業ではないので余計誤解と偏見を生んだ経緯を知ることができた。食を支えてくださる立場の方について、正しく知ることができた。正しく評価され、差別がなくなることを強く望む。



人権の小窓

平成 27 年 3 月

(154)



ありのままで！



元三樹幼稚園園長

中井靖子

昨年は、「アナと雪の女王」の「ありのままで～」の歌がとても流行り、幼い二人の孫娘もこの曲を熱唱していましたが、受け入れることの大切さを世界中に訴えていると感動しました。それは、私の人権フォーラムで発表した題と同じで 40 年間保育に携わってきた中で学んだことでした。

これは、入園当初の二人の男の子のエピソードです。A 児は明るく活発な男の子で、たくさんの兄弟の家庭の中でたくましく育っています。でも、言葉遣いや態度が少し乱暴でした。B 児は一人っ子で温和な家庭で育っていました。

その A 児が保育室で自由に遊んでいるときに、そばで積み木遊びをしている B 児の頭を叩いて「あほ、ボケ」「積み木倒すぞ」と接し始めました。A 児にとっては普段の生活のコミュニケーションのとり方でした。しかし、B 児にとっては驚きで、びっくりしたようです。思わず「向こうへ行って！」と叫んでいました。これには A 児も反対にびっくり！私は A 児に「仲良くしたいから、あそぼって言いたかったんだね」と橋渡ししました。すると、B 児が「たたかへんかったら遊んでもいいで」と言うと、いつの間にか二人で積み木遊びを始めていました。嬉しそうな二人を見て、大家族の中で育っているから乱暴なんだと偏見を持っていた自分に気づかされ、恥ずかしさを覚えました。今接しているその子のいいところを素直に認めることこ



そ、「ありのまま」を受け入れることなのだと教えられました。



教師だけでなく、周りにいる大人は、子どものあるがまを受け入れ、いいところも悪いところも含めてその子の持ち味として付き合っていき、少しでもいいところがあったらすかさず誉めて育てたいものです。そんな小さな積み重ねで「私は愛されている」と感じ、自尊感情が持て、人を尊重する子どもが育つのだと確信しました。

もう一つ、現役最後の年にとってもうれしいことがありました。ある秋の朝、いつものように園児に「おはよう！」と声をかけていると、一人の男の子がナイロン袋に入った赤や黄色の葉っぱを見せてくれました。「わあ！きれいな葉っぱ、素敵ね。見せてくれてうれしいわ。ありがとう！」と葉っぱの美しさに共感しました。2、3日後、その彼が葉っぱの押し葉の貼り絵を作ってプレゼントしてくれたのです。私にわかってもらえた喜びが形となって現れたのでしょう。思わず小さな彼を抱きしめていました。

彼の感じる心や優しさの基盤^{きばん}は家庭でした。幼稚園は初めての社会生活の場で、どの子どもがそれぞれの特性を持って集まるので、お互いに信じあえるような関係を築いていくことが使命だと思いました。使命が果たせたかどうかは自分ではわかりませんが、人の気持ちを大切にして、ありのままを受け止めていく幼稚園教育の素晴らしさを、学べたことに感謝しました。



日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	日		16	月	
2	月		17	火	着付教室・経営相談
3	火	着付教室	18	水	子育てキャラバン3・4歳あつまれ
4	水	子育てキャラバン2歳あつまれ	19	木	習字教室
5	木	習字教室	20	金	経営相談
6	金	経営相談	21	土	春分の日、フィールドワーク
7	土	茶道教室	22	日	
8	日		23	月	歌謡教室
9	月	歌謡教室	24	火	経営相談
10	火	経営相談	25	水	
11	水		26	木	手芸教室
12	木	手芸教室	27	金	経営相談
13	金	経営相談	28	土	茶道教室
14	土		29	日	
15	日		30	月	
			31	火	経営相談

★各教室の開始時間 ◎手芸・歌謡教室：午後 1 時 30 分～
 ◎習字・着付教室：午後 7 時 30 分～ ◎茶道教室：午前 9 時～
 ★子育てキャラバン 午前 10 時～ ★経営相談 午前 10 時～

人権フィールドワーク 参加者募集 猪飼野・コリアタウン

在日コリアンの“第2の故郷”とも呼ばれる大阪市生野区の猪飼野（いかいの）を訪ね、その歴史や人々の暮らしの様子などを見学し、その思いや願いなどをじかに学ぶ機会として、人権フィールドワークを実施します。

■日時 3月21日（土） 9:00～16:00

■場所 大阪市生野区 猪飼野コリアタウン

- ヒメコソ神社（古代朝鮮と日本との関係）
- 鶴橋国際市場見学
- 旧警察アパート跡地
- 御幸森神社（猪飼野の由来、コリアタウン）
- コリアタウン（昼食『プルコギ（韓国風スキヤキ）』、自由散策、買い物）
- 朝鮮学校見学
- 生野サンバラム見学（在日コリアン高齢者のデイサービスセンター）
- つるのはし跡（文献上、日本最古の橋）
- 疎開道路（戦中の朝鮮人の居住問題と立ち退き）

■講師 一般社団法人 在日コリアン・マイノリティー人権研究センター
 事務局長 高 敬一（コウキョンイル）さん

■対象 三同教会員ならびに人権リーダーほか市民 40 名程度

■その他 費用は無料（ただし食事代・保険料は徴収します）申込締切 3月13日（金）
 申込・お問い合わせは、総合隣保館 三同教事務局（Tel 82-8388）まで

